

## ●主な活動の記録 (1月～3月)

1月9日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

本年初めての活動に23名が参加。午前中は、FV連「緑の募金」公募事業”竹林整備と環境保全”をR308沿いで、人工林内に竹と枯損木の除伐をするとともに、国道脇並びに林内に捨てられた大量のごみ集めを行い、午後これらを軽トラで回収し、料理体験館裏に一時保管。後日処理業者がこれらを運び出す予定。昼には、料理体験館で女性達が準備頂いた焼き餅入りのぜんざいで体を暖め、疲れを取った。この間、理事長より年頭の挨拶があった。

解散後の定例理事会では、

- ・県関係各課への新年の挨拶に、理事長と平武理事が近々行く予定
  - ・日月山現地調査の予定
  - ・緑の募金実施報告並びに経過説明
  - ・12月26日実施した餅つきイベントの評価
  - ・先月の総会決議にもとづく、役員の新任・変更・任期の確認並びに法務局への届け
- 他、ボランティア保険、軽トラの扱い等につき検討を行った。



枯損木処理



ゴミの収集



理事長年頭の辞



ゴミの搬出

1月23日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

天気予報が、昼から雪で寒い朝のせいか、参加者13名と少ないため、全員が「緑の募金」公募事業である”頂上展望台の眺望・景観を回復する”ための、人工林の除伐、周辺整備に軽トラと徒歩で頂上展望台へ。

本年初めての除伐作業のため、まずおさらいを兼ね、あらためて作業手順・チェーンソーの使い方並びに注意事項の説明を行った。特に基本であるロープの架け方、伐倒方向の見極め方、受け口・追い口の位置・角度の決め方。伐り急がず伐り具合を自分で確認しながら切り進め、伐倒開始にあたっては、伐り手はエンジンを止め安全な位置(斜め後ろ)に退避後、引手に開始の合図を送ること等。この後、チルホール使用とロープと人力で倒すの二手に分かれ、作業を開始。いずれも掛かり木に手間取りながらの場面が見られた。

終礼後、新任理事である奥村・萬慶両氏より就任の挨拶があり解散。

2月13日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

この時期にしてはかなり暖かいこの日、19名が参集。朝礼後、植栽地の草刈りと頂上展望台付近の除伐の二手に分かれての作業。除伐は、「緑の募金」公募事業の一環としての作業。回を重ねて県より指示を受けた伐倒予定の高木の除伐は、今回で一応の完了となる。展望台でっぺんからあらためて眺めて見ると、ほんの一角を除いては生駒山系の尾根筋が全て見渡せるようになった。

草刈り班は、“野鳥の森”植栽地の近辺を、下刈器数台あとは手鎌での作業。

作業終了後、料理体験館に戻ると待ち受けていた女性陣より、一日早いバレンタインデーのチョコレートの指し入れを頂き、疲れを癒した。

午後は、ナラ枯れで処理をされた木々よりシイタケ植菌に適する太さのものを、一メートル程に切断近場のもの手送りで、管理道沿いのものは、軽トラで集めて、炭窯前に運び込んだ。終了後の定例理事会では、

・大保にある日月山（約2ヘクタール、人工林と雑木林）の下見をした理事長・平武理事より現状の報告有り。日月夫人にも見てもらい、同夫人

の意向再確認後、クラブとしての取組みを検討する。

- ・FV連主催「緑と水のファンド」助成事業であるリーダー研修、3月19.~20日曾爾村で実施予定の説明。
- ・法人理事（更新）の法務局への届出完了報告等があった。

## 2月27日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

朝礼の際、損保ジャパン基金からの助成により新調のクラブ旗の披露があり、加えて(公財) 県緑推から寄贈のあった脛当てカバーと防振手袋が希望者に配布された。本日の参加者17名。

午前中女性以外は、FV連「緑の募金」公募事業としてのR308沿い人工林内で竹の除伐と枯損木の処理作業を実施。今回は西よりの榊野工務店隣接地を集中的にやったため作業終了後は、かなり広く陽が差し込むようになった。集合写真撮影後、料理体験館へ。そこでは、近づくひな祭りにちなんで女性陣で用意頂いた温かい甘酒の振る舞いがあった。

午後、大半は炭窯前でシイタケ植菌。ホダ木80本弱に種駒二袋分を打ち込み、近くの仮伏せ場へ手送りし、井桁状に積み上げ雨除けカバーをした。一部はシイタケ銀行で、古いホダ木の処理をし、本伏せ(2~3ヶ月後)のためのスペースを確保した。

終了後、臨時理事会を開催。

案内のあった平成28年度「緑の募金」並びに「緑と水のファンド」公募事業の対応につき検討を行った。

「緑の募金」一般事業

①来年当クラブが設立20周年を迎えることもあり、これを記念する行事開催を中心とした事業

②FV連では本年に引き続き、竹の除伐を中心として、加えて空きスペースでの植樹

「緑と水のファンド」

③従前同様FV連でリーダー研修と山村交流

として、応募することとし、担当を①奥村・理事、②萬慶理事、③東條理事とする。



新クラブ旗



竹の除伐



シイタケ植菌



ホダ木の仮伏せ

## 3月6日(日) 自主活動 矢田山遊びの森

林野庁助成事業「森林・山村多面的機能発揮対策事業」としての人工林内に侵入の竹の除伐作業を、頂上展望台西側にて実施。参加者9名。朝から春到来を思わせる暖かい陽気の一日で、かなり広い範囲での作業が進展。木々も日当たりと風通しが良くなり、心なしか嬉しそう。

## 3月12日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

FV連「緑の募金」公募事業として、榊野工務店隣接地での竹林整備に、リコージャパン奈良・橿原両営業所

の社員有志 17 名が参加頂き、クラブ員 19 名の大半と共に、午前中竹の除伐作業を実施。暖かい日でもあったのでしっかりいい汗を流してもらった。クラブ員は午後、シイタケ銀行で新しいホダ木を持込み本伏せに備え、古いホダ木の整理を行った。お役御免となったホダ木は、カブトムシの幼虫の餌として供される。

一方クラブ員 7 名は、「緑の募金」公募事業である、頂上展望台の眺望回復のための周辺整備として高木の除伐。前回でいったん完了しものの、その後の県の調査の結果、更なる眺望改善を期すため追加 15 本が選木されたので、これらの除伐を実施。今回はヒノキに加え、赤目カシワ、楠も対象となり、本日はヒノキ 5 本と赤目カシワ 2 本を伐倒し、次回大きな楠の除伐に備え周辺整備を行って終了。

終了後、定例理事会にて、平成 28 年度「緑の募金」公募一般事業への対応につき検討。

来年のクラブ創立 20 周年の記念事業を兼ね、頂上展望台下の広場でサクラを中心に記念植樹をするための助成金申請を行うこととした。



リコーの皆さんと



竹伐り作業



高木の除伐



ロープ架け

3 月 19～20 日(日) リーダー研修と山村交流 曾爾村

FV 連主催で「緑と水のファンド」助成事業、「森林ボランティアリーダーの養成と村おこし支援と交流」(昨年に続き 2 回目) が開催され、当クラブから 8 名、いこま里山クラブ 5 名、景観ボランティア明日香 3 名の計 16 名が、19 日昼過ぎ各地から三々五々宿舎に集合。

前日の雨のため、予定していた作業は中止し夕方からのスケジュールを前倒し、同村塩井集落センター内での座学。

”漆ぬるべ会”松本会長による、漆育ての現状と問題、次いで同会事務局吉田氏(村役場職員)の同村の現状と課題を資料をもとにお話し頂いた。同村の過疎化の進行を何とか遅らす為、種々手を打たれ努力されている様子がうかがわれた。終了後、近くの漆植栽地を見学、獣害対策と適度な水気保持に苦労されているのがつぶさに見られた。

夕方の交流会までに多少時間の余裕があったので、名湯”お亀の湯”で明日への英気を養い、宿舎に戻り、参加各自の自己紹介でお互い親しみを深め、次いで漆ぬるべ会の方々を交えての懇親会で大いに歓談。

やや肌寒い 2 日目の朝、作業に備えて海老沢式柔軟体操で軽く体を解し、竹伐り。間伐作業半数ずつに分かれ、途中昨年我々の手による漆植栽地に立ち寄ってから、それぞれ指導者と共に作業現場へ。

<竹伐り班>

松本会長の「竹も木を伐る時と同様、倒したい方向に受け口を作り、弦を残した状態で追い口切りする」との安全作業の指導を受け、家屋の傍まで浸入した竹と格闘。屋根を突き破ったのもあり、てこずりながらも 12 時まで作業し、見違えるように明るくなった伐採跡に一同達成感を味わえる活動が出来たことに感謝。

<間伐班>

区有林内で、2 人一組での間伐作業。まず吉田元会長による安全な作業の為の手ほどきを受け、各組十分な間隔を取って作業開始。ロープ架けをし、チェーンソーで伐り進んだが中には枝の張りがしっかりしたものもあり引き倒しは力仕事。間伐材は利用(主に薪用)されるとのことで、4 m での玉切り。最後に西口氏の指導でスギの大木をチルホールを使って、ほぼ予定通りの方向に無事伐倒し終了。

一同、昼過ぎ宿舎に戻り、記念撮影・昼食と閉会式。

連休の最中ながら、同会の皆様の多大なご協力の下、無事にかつ楽しく有意義な活動が出来たこと感謝し、来



年もまた是非とロ々に別れた。



講演会



参加者の面々



竹伐り



間伐

3月26日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

参加17名。内男性13名は午前中、FV連「緑の募金」公募事業、R308 協で”竹林整備と環境保全”活動として竹の除伐。作業は進み、西側では雑木を残し整備がされ、里山本来のすっきりした姿を取り戻した。作業中ちよこっと先端を地表にのぞかせた筍を見つけた者は、一時作業の手を止めて筍ほりにいそしんだ。

午後は持ち帰った竹でクラフトをしたり、機械・器具の点検・整備を行った。

女性4名は朝から、木の子村から頂いた蒟蒻芋を使ってのこんにやくづくりの初体験。終礼時までによく固まって、出来立ての温かい玉二つずつ皆は持ち帰った。

下記は幸田さんの体験記。

#### ”初めての蒟蒻作り”

蒟蒻芋（さといも科の多年草）の皮を剥いて小さくカット。水に晒し、水から茹でる。たっぷりのぬるま湯（芋の重さの3倍強）と共に少しずつミキサーに掛け、凝固剤を入れ素早く手で混ぜ合わせ一時間置く。アク抜きのため手で丸めながら80～90度のお湯に入れ、一時間茹で、更に水を替えてもう一時間で出来上がり。そのままではアクが強く口に出来ない物に手数を掛け、食べ物に変える昔の人の知恵と努力に感謝です。



竹伐り



タケノコ掘り



器具の点検



蒟蒻づくり